

入梅の候 宮崎県防衛協会宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと拝察致します。

また日頃より皆様には当支部運営に際し、特段のご高配を賜り感謝申し上げます次第です。

さて31年間続いた「平成」から「令和」にお御代替わりをして1ヶ月経過しましたが、皆様の頭の切り替えは順調にお進みでしょうか？私の場合はSからHに切り替えるときもそうでしたが、Rへの切り替えは加齢のせいもあり、いま暫く時間が掛かりそうです。（笑）

4月末からお御代替わりの行事が連なり、GW前半はその消化に汲々とする毎日でした。悪天候の中4月29日と5月1日は宮崎神宮での関連行事に参列し、特に5月1日は私の玉串奉奠する姿がTVニュースに流れたらしく、それを観ていた友人達から冷やかされたところです。

5月3日恒例の「改憲セミナー」は宮日会館の10F大ホールで開催したのですが、事前アナウンスも悪く例年に比べ来場者は低調で、県民へ「改憲意識高揚」の更なる必要性を感じましたし、講師の選定など企画の内容も再検討せねばなりません。

翌4日は「陸上自衛隊高等工科大学65期宮崎県出身生徒激励会」をひまわり荘にて開催したところ、6名中3名の若桜が駆けつけて、1ヶ月前に宮崎空港で見送った姿から逞しく成長した様子に参加者一同感激し、高等工科大学の教育の素晴らしさ再認識した次第です。

先月唯一の自衛隊行事であった「えびの駐屯地創立38周年記念式典」は25日、26日の両日市中パレードや観閲式など盛大に開催された記事を5月29日の宮日新聞にて拝見しましたが、私は折悪しく福岡～東京出張と重なり参加できず、折角ご案内頂いた中川連隊長には大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

その東京出張時、令和初の国賓としてトランプ大統領が来日され安倍総理とゴルフや大相撲観戦、六本木で炉端焼きに舌鼓を打ったとの報道を聞きながら赤坂見附周辺を歩いてたところ、おおよそ100mおきに防刃ベストを着用の上、警棒を握りしめ半長靴を履いた警察官達と遭遇し、厳戒態勢の警備状況というものを垣間見た思いです。

最終日は米国大統領として初めて海上自衛隊護衛艦「空母・かが」に乗艦し、上甲板から巨大EVで格納庫に降りていく様子がTVニュースで流れました。階下で整列する日米両国隊員を激励するため安倍総理とともにトランプ大統領がスピーチする映像に、改めて日米同盟の強固な絆を感じたのは私一人では無かったものと確信しています。因みに現在宮崎セントラルシネマで上映中の「空母いぶき」は日本の防衛問題を考える上で大変示唆に富んだ内容ですから、是非のご鑑賞をお勧め致します。

今月も小川先生のメルマガを以下に転載致しますので、何卒ご一読下さい。

・「9条問題」と「辺野古問題」

「木を見て森を見ず」という言葉があります。

辞書は、次のように説明しています。

「小さいことに心を奪われて、全体を見通さないことのたとえ」

「些細なことにこだわりすぎると、ものごとの本質や全体像を見落とすことがある」

もともとは欧米から入ってきたとされ、英語のYou can not see the wood for the trees.(木のために森が見えない)のほか、ドイツ語やフランス語にも同じ言い方があるようです。

中国にも、「鹿を追う者は山を見ず」という格言があるようです。獲物に気を取られて山全体が目に入らなくなる、つまり「一つのことに夢中になると、心の余裕がなくなる」という意味です。

なにを申し上げたいのか。憲法問題や普天間基地移設問題に進展がないのは、「木を見て森を見ず」に陥っているせいではないか、ということです。

憲法問題は、一貫して「9条問題」に陥っています。普天間問題もまた、気がつけば「辺野古問題」になってしまいました。

憲法9条に賛成か反対か、辺野古の埋め立てに賛成か反対か、という議論になっています。

しかし、9条が日本国憲法の性格を決めているわけではありません。最初に置かれている前文が掲げている基本原理によって、憲法の性格は決められなければなりません。基本原理は3つあり、国民主権、基本的人権、平和主義です。

その平和主義に照らして9条はどうか、という順序で議論されなければならないのです。

憲法前文の平和主義は、世界の平和を実現するために行動することを誓うという意味の言葉によって表されています。

ひとくちに世界の平和と言っても、口で叫んでいるだけでは平和は実現できません。少なくとも、平和を構築するために国連平和維持活動(PKO)に参加することくらいは求められます。

そうすると、いっさいの軍事力を持たないと謳っている9条では対応できません。外国を侵略できない構造の軍事力を持つ一方で、最低でも現在の自衛隊くらいの規模の軍事組織を持たなければ、部隊をPKOに派遣することはできません。

そう考えると、間違っているのは9条のほうだということになります。

普天間問題のほうも同じです。住宅密集地に囲まれた普天間基地を移転しないと、墜落事故

などで大惨事が起きたら日本の政権は吹き飛び、日米同盟にもひびが入りかねません。だから日米両政府は返還に合意したのです。

そこでやることは決まっています。本格的な移設先が決まろうが決まるまいが、**まずは仮の移駐先**を確保して普天間の回転翼機(当時はヘリコプター、現在はオスプレイ)をひと飛びで移駐させ、**すぐさま普天間を閉鎖**するのです。

それが、いつできるかどうかわからない**辺野古**のV字滑走路案が**完成**したら普天間の航空機を移駐させられるから、それが**危険性の除去**になると、**政府が公言**しているのです。

おまけに**沖縄県側**までが、2月24日に実施した**県民投票**で**辺野古案**に対する賛否を聞いたわけですから、普天間問題はいつの間にか「**辺野古問題**」に変質したといっても間違いないでしょう。これに疑問を投げかける**マスコミ**もないというのは、一体どうしたことでしょう。

木を見て森を見ず。ちゃんと意味を考えながら、この言葉を口にしたいものです。以上

私自身も「手段」と「目的」の混同をした経験がありますが、いわゆる「手段の目的化」の陥穽にはまり、進むべき方向を見失う事があります。恐らく改憲論議も70年以上続けているといつの間にか「9条是非論」に集約され、この国の形を作り100年の大計を示すべき憲法が矮小な議論に終始しているような気がしてなりません。

辺野古問題も同様で、先ずは普天間基地移設を急ぐべきはずの議論から「**辺野古是非論**」にすり替わっているというのは、小川先生ご指摘の通りだと思います。

多分頭の良いマスコミ関係者はそのことはとくに気づいているはずなのですが、わざと一般受けのする「9条」とか「**辺野古**」とかのキャッチコピーを多用することで本質論から目をそらせて、まるで世論を自ら誘導しているかのようです。

小川先生のこのメルマガのタイトルは「**ニュースを疑え**」ですから、我々もTVや新聞の報道を鵜呑みにせずに、様々な情報収集の中での確かな判断ができるようにならねば「**木を見て森を見ず**」とのご指摘を受けるやも知れません。

間もなく鬱陶しい梅雨の季節に入りますが、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

令和元年6月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦